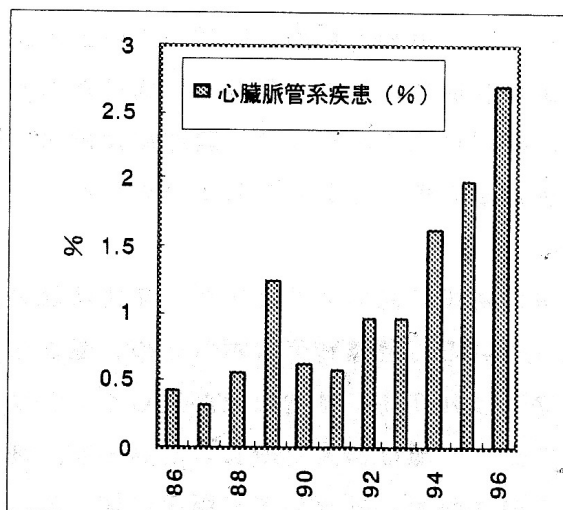


連載 11 強制疎開地域で暮らすナロジチの子どもたち

(ナロジチ病院のデータより)

年	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96
人口	10780	10649	10591	6582	5625	8173	7442	7120	6634	6044	4704
児童数(人)	958	905	895	803	810	675	925	914	795	756	700
のべ罹病児童数(人)	2594	2533	1396	1778	1218	1573	673	1015	836	1159	1319
罹患率(%)	271	280	156	221	150	233	73	111	105	153	188
内分泌系疾患(人)	149	69	125	220	60	102	20	17	36	20	30
心臓脈管系疾患(人)	4	3	5	10	5	4	9	9	13	15	19
骨肉腫・リンパ腫(人)	0	1	1	2	1	6	4	3	4	2	3
神経疾患(人)	402	3	111	131	34	75	16	80	115	41	145
胃腸疾患(人)	48	9	41	44	33	35	122	341	214	169	310



私たちが支援している、ウクライナ・ジトームル州の汚染地域ナロジチの強制疎開地域には、今も約5000人の住民が生活している。政府の移住政策が破綻し移住がこれ以上出来なくなったためである。私たちが昨年来、ナロジチ病院の給水・給湯設備やスチーム暖房の援助をしたことにより、病院の医療体制は大いに改善された。病院は私たちの要望に応え、この地域の病気の状況に関する詳細なデータを提供してくれた。ここに紹介するのは、そのごく一部である。

上の表に見られるように、原発事故以来この地域の人口は半減した。12の村が閉鎖されたがまだ21の村や町には人々の暮らしがある。汚染した土の上に住み、汚染した食べ物をたべなければならない環境でも子どもたちはくたくたなく遊んでいる。しかし、この700人の子どもたちの罹患率は1996年には188%、すなわちどの子も平均2つの病気を抱えるまでに増加し、さらに増加傾向にあるようだ。事故直後の大きな驚異だった甲状腺など内分泌系疾患は、1991年頃を境に次第に減少しつつある。しかし、それに替わって事故前は希だった骨肉腫やリンパ腫などの癌に加え、神経疾患、胃腸病、心臓循環器系の病気が激増している。心臓循環器系や胃腸病、神経疾患などは事故処理作業員たちが今苦しんでいる病気である。こうした、「大人の病気」を15歳以下の子どもたちが病んでいるのはどうしたことだろうか(河田昌東)。

ロシア語資料の翻訳は竹内高明氏による